

12月歴史文研修会・報告 地元史探訪と座学

田代 一行

12月4日(火)地元史として午前中は「ぶらり、きたまち・奈良街道沿いを巡る」をテーマに、午後からの座学は「正倉院に伝わる秘密の厨子」をテーマに講演会を実施。前日の天気予報では曇り時々雨で心配したが、当日は12月にしては各地で夏日となり、奈良も気温が25度近くまで上がる。途中少し雨が降ったものの、支障のない歴史日和となった。

参加者は26名。近鉄奈良駅・行基前を午前9:00に出発。興福寺一乗院跡(現・奈良地方裁判所)から京街道(別名奈良街道)へ出る。みとりみ池から南都八景に詠まれた、轟橋、雲井坂を通り、東大寺西大門跡、小野小町の歌碑がある威徳井、中門跡(焼門跡)を回って御拝壇へ。四角い石の御拝壇は、聖武天皇が受戒の時、ここで大仏殿を拝礼して境内に入ったという場所である。(平安時代になっても、天皇、上皇が参拝の時に同様にされた)

ここから大仏池の西側の道を通り、転害門へ。この門は10月5日の手向山八幡宮の祭礼の御旅所になっており、唯一創建以来現存する門で、国宝に指定されている。柱には鎌や弾丸の痕が数多く残り、幾たびかの戦禍にも耐え、東大寺創建当初の姿を今に残している。

転害門から京街道をさらに北に進み、奈良奉行所が築いた当時では珍しい石橋を渡り、西大寺の僧・忍性が難病患者のために設けた、北山十八間戸に至る。鎌倉時代、僧・忍性が不治難病の患者救済のため宿舎を設けたのが始まりで、慈善事業の遺跡として著名。そのすぐ北には夕日地蔵が立っている。地蔵様の横には会津八一の歌碑がある。さらに北へ進み、般若寺へ。すでにコスモスも終わり、境内には参拝客もまばらで、国宝の鎌倉建築の楼門から、聖武天皇が大般若経を基部に納めたといわれる、重文の十三重石塔がよく見えた。

向かいには老舗の植村牧場でソフトクリームが有名だが、本日休業で残念。ここから少し戻り、丸い尖塔と赤レンガ造りで明治の面影が残る「奈良少年刑務所」へ。昨年閉鎖され、最後の一般見学会が先日行われ、刑務所の内部が公開された。今後は『監獄ホテル』として改装される予定とか。



その後、若草中学校へ坂道を登り、多聞城跡へ。標高115mの眉間寺山に松

永(弾正)久秀が大和支配の拠点として築いた城で、今は碑のみで何も残っていない。信長が嫉妬したといわれる、近世式の城郭史上画期的な造りの、絢爛豪華な4層の櫓を持ち、信長はこの多聞城をまねて安土城を造ったといわれている。「多聞城と築城主の武将・松永久秀」について説明板がある。

予定に入っていた聖武天皇陵と光明皇后陵は時間の都合でパスし、国立奈良女子大学へ向かう。

旧本館は守衛所の建物と共に明治42年開校以来の姿を残し、国の重要文化財になっている。いまは「奈良女子大学記念館」となっている。この敷地は、かつて奈良奉行所があったところとか。

ここで時間切れ。午前中の「きたまち、巡り」を終了した。それぞれ女子大の学食で昼食や興福寺・中金堂見学など自由とし、中部公民館に午後1時集合として、一時散会した。

午後の講演会には予定を超える39名が参加された。「NPO法人平城京跡サポートネットワーク」の鈴木浩理事長による講演開始。演題は「正倉院に伝わる秘密の厨子」、副題として「正倉院に伝わる天武天皇、遺愛の厨子から歴代の相伝由来が見える」をテーマに午後3時まで講演をしていただく。

厨子の説明と天武天皇以来、歴代天皇によって伝世された由来など正倉院に伝えられる厨子にまつわる、とても興味深い解説があった。

ご参加ありがとうございました。